

【4月まとめ】

3月は前月に引き続き温暖な気候で、荷動きも準じて緩慢な傾向が続いた。3月上旬kg価格は236円(前年比80%)と、品不足を引き摺っていた前年より大きく安い。ただ、上・中旬にかけて断続的な降雨と気温低下があったことから果菜類では存外に数量が伸びてこなかった。また、春商材への切り替えも進んだことから、前月よりは明るい兆しを感じる品目もいくつか出始めた。中旬kg価格は238円(同96%)で、前年同期は長く続いた品不足が解消されて相場が下がり出した時期であり、上旬よりも価格差が縮まっている。品目別では、菜の花が「ひな祭り」需要で引合い強まった他、生育が例年より2~3週間ほど早まったことで3月後半から減少。量販店での特売が相まって、不足感から相場は上昇した。さやえんどう等の豆類も春商材としての需要から中旬には引合いが強まった。トマトやきゅうり、ピーマンは九州を中心に曇天が続いたことにより出荷回りが少なめで相場が上向くこともあったが、中旬以降はいくらか増量となり価格は落ち着きを見せた。白菜やキャベツは春物が各地生育順調かつ不足のない出荷回りで、相場は軟調。人参は徳島産が順調出荷で増量し、千葉産の残量も多いことから相場は低迷した。4月は多くの品目で作柄良好と報じられており、3月には出荷回りの薄かった果菜類も増量に向かう見通しである。また、本年の5月連休は今までにない長期休暇となることから、同時期にピークを迎えるきゅうり等ではそれを見越した相場展開を取るなど動きが出ることも予想される。どちらにしろ厳しい販売が続くと見られ、価格の上がる要素に乏しいところだが好転に向けて奮闘する日々となろう。4月の見通しkg価格は240円。前年比ではやや安い、不作高騰を抜けて全面安となった前年に比べれば高い水準を見込む。

根菜類

【だいこん】千葉産中心の出回り作柄良好。前年並みの数量が見込まれる。神奈川産は前進出荷で4月上旬にはほぼ終了。【にんじん】主力徳島産は作柄良く平年作。3月下旬~4月中旬に出荷ピークを迎える見込み。【ばれいしょ類】北海道産は減少しながら5月連休前にはほぼ終了。鹿児島産の離島物(あまみ)は終盤で日々減少。本土物は豊作で大玉傾向、潤沢な出荷回りとする。【たまねぎ】北海道産は5月の終盤に向けて減少推移。佐賀産は作柄良く大玉傾向で、増量が続き見通し。

葉茎菜類

【はくさい】茨城中心の出回りで生育は概ね順調。下旬には出荷ピークで潤沢な出荷が見込まれる。【キャベツ】神奈川・愛知・千葉産中心の出回りで、各地作柄良好。愛知産は3月より減少となるが、他産地を含めた全体では潤沢な数量が見込まれる。【ほうれん草】群馬・茨城・埼玉産等の出回り。群馬産は生育不安定な面はあるも3月よりは微増。茨城産は生育順調で潤沢な出荷回りに。埼玉産は生育順調で前年並みの数量を見込む。【ねぎ】千葉産は4月20日頃にプレミアム夏ねぎのスタート予定。生育順調で前年以上の数量見込み。埼玉産は生育順調で前年並みの数量。茨城産は3月と横ばいの出荷量を見込む。【レタス】茨城産は出荷のピークで潤沢な出荷回りに。兵庫産は生育順調で4月中旬には数量がまとまるだろう。群馬産は4月下旬には数量が出てくる見通し。

果菜類

【きゅうり】関東産中心の出回りで、生育に遅れの見られる部分もあるが概ね順調。各

地増量傾向となろう。4月下旬~5月上旬には出荷ピークを迎える見込み。【トマト】熊本・栃木・愛知産中心の出回り。現状、各地控えめな数量だったが4月には遅れていた分も含めて出荷も進んでくる。全体量は大幅な増量とはならないものの3月よりは増える見通し。ファーストは4月中旬まで少ないが下旬からは増量となろう。【なす類】高知産はこれまでより増量となるが大幅には増えず。福岡産は潤沢な出荷の負担により中旬まで少なく、以降は回復を見込む。【ピーマン】茨城産は春物の本格出荷で増量。宮崎・高知産も作柄良く増量に向かうだろう。

その他

【アスパラ】九州産の出荷前進により、後続産地が出荷本格化を迎えるまで上げ気配強まる見込み。【にら】生育、出荷状況とも安定の見込み。【豆類】沖縄産いんげんは終盤で前年比減、長崎産いんげんのハウス作は順調で前年並み。鹿児島産そらまめは2週間の生育前進ですでにピークを過ぎ4月中旬に切り上がる見込み。愛知産スナップえんどうは例年通りピークを迎えるも、前段の出荷前進のため、だんだら出荷となる模様。【たけのこ】九州産地と静岡産の裏年を受けて全体量は前年比減。【ふき】春ふきは根張りが弱く、数量伸び切らず。量的には前年を下回るも肥大は順調。【山うど】例年通り4月初から露地物が出荷本格化し、中旬まで量も出揃う。株の状態は万全ではなく、作付減の流れもあり、入荷量は前年を下回る。【葉しょうが】静岡産は肥大良好でLサイズ中心。4月20日頃ピークを迎え前年比若干減。

4月主要品目産地別生育出荷情報及び単価見通し(全都扱い)

○強い ○#強保合 #保合 △#弱保合 △弱い 単位:円/kg,
主産県:()内数字は前年の全都入荷量構成比 出荷現状:A…出荷開始、B…最盛期、C…末期
(状況は2019年03月20日現在)

本資料の無断転載はご遠慮下さい。
記載内容の文責は営業管理部情報課
(電話番号:03-5492-2041)

だいこん

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
74	80	○#	△#	#	85	102%
販売見通し	前年、主力千葉産は3月の好天、台風後の播き直し分もあり、入荷一昨年並みとなったが、他の関東産は前倒し出荷のため、総体では数量少なめ。消費地の気温高で荷動き鈍く、価格83円と前年比でも安く低迷。 【本年】メインは千葉産となる。各地、暖冬の影響で前年より前進出荷となっており、神奈川産は4月上旬には出荷回りがほぼなくなる予想。千葉・茨城産は作柄良好で、全体量に不足なく前年同様の緩慢とした荷動きが予想される。見通し単価85円は安かった前年並み、前年比ではやや安。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
千葉(78%)	ちばみどり(アグリタウン)	B	現状、12月中旬に播種した分が出ており、生育は順調。3月の出荷よりは増量となり、前年並みの出荷回りが見込まれる。			
	とうかつ中央(マル初)	A	生育はやや前進傾向にあり、3月末から出荷スタート。前年並みの出荷回りを見込み、4月末~5月頭に出荷のピークを迎える予想。			

にんじん

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
103	105	#	#	#	105	49%
販売見通し	前年、主力徳島産は年内から続く低温のため肥大鈍く数量少なめ。主力産地の不足で引合い強く、価格214円は基調高の一昨年より高く前年比では4割高と高騰した。 【本年】徳島産中心で作柄は良好、前進出荷の傾向あり。出遅れた前年とは違って不足のない出荷回りを見込む。3月下旬~4月中旬にピークを迎え、数量増の単価安となる予想。見通し単価105円は高かった前年の5割安、前年比でも大きく安い。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
徳島(71%)	板野郡(栄)アグリあなん	B	現状、生育は順調に進んでおり、3~4月の出荷量は前年を上回る見通し。肥大は例年通りL、Mサイズ。3月最終週からピークに入り、4月中旬にシーズン最大のピークを迎え、4月いっぱいまで安定的に潤沢な量が出回る。予想入荷量は不作だった前年を上回り、前年並み。			

はくさい

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
40	40	○#	#	○#	45	98%
販売見通し	前年は、茨城産の春作は生育前進、肥大順調となり、総体でも数量多め。秋冬作の高値続き、気温上昇による需要停滞で、価格46円と低迷し前年比でも半値の水準。 【本年】茨城産中心で生育面ではいくらか内部障害の懸念はあるものの、概ね作柄良好。4月下旬から出荷ピークを迎える見込み。数量潤沢かつ、業務・加工需要は歩留まりが良かったため荷動きは鈍い予想。見通し単価45円は安かった前年並みも、前年比では5割安。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
茨城 (98%)	北つくば (結城)	A	春ははくさいは1~2月の干ばつの影響を受け、当初は生育遅れ気味であったが、現状は適度な降雨もあり、前年作と順調。例年通り4月10日頃から出荷始まり、4月上旬~5月当初にかけてピークに入り、20日頃まで続く。玉流れは4玉6割、6玉4割と肥大もまずまず。予想入荷量は潤沢入荷した前年を下回る見込みもほぼ前年並み。			
	常総 ひかり (八千代)	B	3月末時点で日量10,000~15,000ケースの出荷。年明けに定植した分が4月5日頃よりまとまった数が出て、日量20,000ケースと増加が見込まれる。その後は2月までの干ばつの影響もあって一旦落ち着くが、4月20日頃より再び山場が来る予想。			

キャベツ

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
63	70	#	#	#	70	78%
販売見通し	前年は、関東産の春キャベツが潤沢に出回ったが、愛知産は出荷前倒しと小玉傾向で数量伸びず、総体では入荷微減。関東産の数量多く、価格90円は前年比でも安。 【本年】神奈川・愛知・千葉産中心の出回り。各地作柄順調なため数量は多い見通し。荷動きはあるだろうが、物量の多さから相場は上からず軟調のまま推移か。見通し単価70円は前年より大きく安く、前年比でも大幅に安い。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
神奈川 (49%)	三浦市	B	本春系は例年より2週間ほど生育前進し、2月前半から出始めた。天候のぐずつき、低温等の影響も一時的で生育順調。現状、本春系は量も出揃い潤沢な量が出回っており、4月も引き続き生育、出荷状況とも順調。最大のピークは前年よりも早まり4月20日前後の見込み。4月の予想入荷量は出遅れ分のずれ込みで多かった前年並み。			
愛知 (33%)	豊橋	B	春系は生育順調で大玉。冬系は前年の台風の影響で減ると思われた分が好転して予想より出てくる見通し。ただ、全体量としては3月の出回りより減少となる。市況の厳しさが反映して、収穫せずに夏に向けた作業に切り替える生産者もいる状況。			
千葉 (16%)	ちば みどり (アグリ タウン)	B	生育は若干前進傾向。現状は品種の切り替え時で少なくなっているが、4月に入れば数量回復となる。4月の出回りは3月より多くなり、全体量は前年並みを見込む。			

ほうれんそう

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
364	470	○#	#	△#	470	96%
販売見通し	前年は、気温変動激しい中、生育は概ね順調。前年少なかった群馬産は大幅増も他の関東産は前年を下回り、総体では入荷微減。価格488円は前年比ではやや高く堅調。 【本年】群馬・茨城・埼玉産等の出回り。価格がこなれたことで3月下旬から4月上旬まで引合いは強まる見通し。中旬以降は需要も落ち着き、夏秋物が増量となる中で相場は下げ目となる予想。全体の入荷量は前年並みを見込む。見通し単価470円は前年比若干安、前年比でもやや安い。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
群馬 (38%)	太田市 (藪塚)	B	3月は気温の上下が激しく生育環境は不安定であるが、今後安定して暖かくなれば前年通りの出荷が見込まれる。4月の出回りは3月とさほど変わらないだろうが、基本的には微増推移となろう。			
	利根沼田 (糸之瀬)	B	2月までの干ばつの影響が残るが、3月の数量よりは増量となる見込み。5月連休頃にピークを迎える予想。			
茨城 (37%)	茨城旭村	B	生育は順調、4月も山谷なく潤沢入荷となろう。全体量は前年よりやや多い見込み。			
埼玉 (12%)	いるま野 (川越)	BC	2月の生育前進と、3月の夏作物の作業が進んでいることで、数量は落ち着きを見せている。4月は生育に問題なく、前年並みの量で推移しよう。			
岩手 (1%)	新しいわて (平笠)	A	生育面では3月末に寒い日が続いた影響はあるが、4月20日頃より増加の見込み。5~6月の最盛期に向けて増量傾向となろう。全体量は前年並みを予想する。			

ねぎ

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
258	240	#	#	○#	270	93%
販売見通し	前年は、茨城産を除く関東各産地の春ねぎは乾燥のため太りは鈍く、総体でも入荷1割減。年明けからの高値続きで、荷動き鈍く、価格290円は4年振りに300円台を割り込んだ。 【本年】千葉・埼玉・茨城産の出回り。各地生育順調で太め中心となる。下等級比率が高く、軟調な販売が予想される。下旬には春物の減少と夏物のスタートで相場は持ち直す見込み。見通し単価270円は前年比若干安、前年比でもやや安い。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
千葉 (42%)	ちば みどり (そうさ)	B	秋冬作は3月末で出荷終了。春作は3月下旬から始まり、4月いっぱいまで販売にめどがつく。プレミアム夏ねぎは4月20日頃から出荷開始の予定。現状、各作型とも生育順調。太りも良く、春作は2Lサイズ中心、プレミアムは例年通りLサイズ中心も2L比率は高まる見通し。プレミアムの作付増もあり、月トータルの予想入荷量は前年以上。			
埼玉 (25%)	ふかや (南部)	BC	春作は予定通り、3月下旬から出荷開始となった。当初は乾燥のため土寄せ作業、生育進度は遅れ気味であったが、3月に入り適度な降雨もあり、現状、生育は順調。出荷に影響するような病害もなく、2Lサイズ中心と太りも良好。予想入荷量は前年並みの見込みも、ねぎ坊主の発生次第。			
茨城 (16%)	岩井	B	生育は順調ながら1週間程度の前進が見られ、トンネルの除去も例年より早かった。4月は初夏ねぎ中心の出回りで、3月と同水準の出荷量が見込まれる。5月中旬頃からピークを迎える予想。			

レタス

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
150	150	#	#	△#	140	101%
販売見通し	前年は、主力茨城産は豊作基調、群馬産も生育早まり一昨年比増となるも、終盤の兵庫・香川産は出荷前倒しで少なく、総体では入荷微減。前月からの下げムードは変わらず、価格138円は前年比でも安。 【本年】茨城・兵庫産中心の出回り。いずれも生育順調で潤沢な数量が見込まれる。4月に入ると群馬産が始まり、下旬には最初のピークを迎えるだろう。長野産も出てくるため下旬には相場が下がる予想。見通し単価140円は安かった前年並み、前年比では大きく安い。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
茨城 (64%)	岩井	BC	4月は最盛期となり、日量15,000～20,000ケースの潤沢な出荷が見込まれる。サイズはLで3割、2Lで3割と肥大も良好。4月下旬～5月にかけての切り上がりが例年より多少早くなるか。			
	北つくば (結城)	BC	圃場によって肥大状況はまちまちだが、玉伸びはL、2Lサイズ中心と順調。ピーク期の4月は平準して潤沢な量が出回る。年明けの干ばつの影響から5月上旬の出方は緩慢となり、中旬には減りながら推移し、20日頃には終了予定。前段の出荷前進もあり、4月入荷量は前年より若干減を見込む。			
兵庫 (11%)	あわじ島	B	現状、1月上旬に定植した分が出ている。生育は順調で4月中旬から数量もまとまってくるだろう。全体量は3月より増量となろうが、2月定植分で少ないところがあるため前年よりは少なめか。			
群馬 (8%)	利根沼田 (糸之瀬 ほか)	A	2月までの干ばつの影響があるものの、今後気温上がれば順調な生育となるだろう。作付面積は前年より若干増。4月下旬から数量が出てくる予想。			

きゅうり

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
349	300	#	△#	△#	220	101%
販売見通し	前年は、関東産、西南暖地産とも潤沢入荷し、総体でも一昨年、前年よりも多かった。荷動き自体はまずまずだが、飽和感もあり、価格217円は前年比でも安く販売苦戦。 【本年】3月上中旬は天候不順により関東産を中心に出荷量は前年割れとなったが、今後は増量となる見通し。各地で出荷ピークを迎える5月連休に向け、4月後半は値段を下げての販売となろう。見通し単価220円は安かった前年並み、前年比では大きく安い。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
群馬 (26%)	邑楽館林	B	3月の出回りは前年より少なかったものの、4月からは最盛期となり増量、前年通りの出回りが予想される。			
埼玉 (25%)	ふかや (北部)	B	加温物は根張りが良くなく、無加温物は定植期の悪天候で生育が遅れ気味。4月の数量はあまり伸びてこない予想だが今後の気温次第で回復もある。出荷ピークは4月下旬～5月上旬の予想。			
千葉 (13%)	ちば みどり (旭)	B	3月末はやや減少していたが、4月は天候良ければ増量に向かうだろう。前倒し傾向もあり、全体量は例年より少なめか。			
茨城 (11%)	北つくば (大和)	B	生育は順調で3月の出回りより増量傾向となる。出荷ピークは5月連休後を見込む。			

なす類

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
437	400	#	#	#	400	108%
販売見通し	前年は、各産地とも順調な出回りとなり、数量多め。価格370円は前年比でも安く、前月の品薄高から販売状況は一転した。 【本年】高知・福岡産中心の出回り。高知産は3月より増量するが山場とはならず。福岡産は着果負担から中旬にかけて少ないが、以降は回復となる見込み。見通し単価400円は前年より若干高く前年並み。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
高知 (56%)	高知県 (あき)	B	実の成りはあるので、これまでよりは増加傾向となるが、大きな山谷のない出荷になる見通し。全体量は山場のあった前年に比べて少なめを見込む。			
福岡 (17%)	南筑後 (瀬高)	B	【長なす】生育は順調だが、これまで潤沢に出たので着果負担から数量減少。4月中旬までは少ない出回りが見込まれる。下旬からは回復して増量となる。			

トマト

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
393	380	#	△#	△#	330	99%
販売見通し	前年は、関東産地、西南暖地産ともやや小玉傾向も前年作と順調。総体の入荷量は潤沢だった一昨年の1割減もほぼ前年並み。果菜類全般に十分な量もあることから、価格333円は前年よりやや安。 【本年】熊本・栃木・愛知産を中心とした出回り。3月は全体量少なめで推移したが、4月は遅れていた分が出て増量となる見通し。春商材のため量販店の売り場も広がり、荷動きも出てこようが、下旬にはさらなる増量と5月連休を控えて相場の下げが予想される。見通し単価330円は前年並み、前年比でやや安い。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
熊本 (32%)	八代地域	B	生育は順調で、数量控えめだった3月よりは増えてくる見通し。暖かくなり、着色基準を落として早めの収穫にするため、小玉中心となる。数量に大きな山場はなく、安定的な出荷が予想される。			
	玉名	B	少なかった3月より増量となる見通し。4～5月がシーズン最盛期となる。			
栃木 (25%)	うつの みや	B	越冬物は空洞果・小玉果の段を抜けて大玉化する見込みだが、日照が多いため回転が早まっている。春物は1～2月の日照が多く前進傾向、3月も数量が出ていたため今後は小玉化が予想される。灰カビ病が一部見られるが収量に影響はなし。小玉が多いために全体量としては3月に比べ微増程度か。			
愛知 (10%)	ひまわり	B	2月中旬の天候の崩れ、直近の冷え込みで現状、生育はやや停滞気味も、基本的には長段取り、植え替えタイプとも草勢は良好。着果量も不足はなく、目立った病害も見られず。トマト総体では4月中旬には量も揃い、4月下旬～5月中旬に出荷本格化を迎える。生育良好も作付減の流れもあり、予想入荷量は前年並み～やや減。			
千葉 (6%)	長生	B	冬季の曇天が影響して現状は小玉中心の出荷となっており、4月もSサイズ中心でその傾向が続く見通し。ただ、玉着きは良好なため3月に比べ微増にはなる。			
茨城 (5%)	水郷 つくば (竜ヶ崎)	B	【ファースト】収穫段の切れ目と、病害が見られることから4月中旬まで若干減少が見込まれる。下旬から増量となり、5月連休明けには出荷ピークを迎える予想。			

ピーマン

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
677	680	△#	#	△#	430	111%
販売見通し	前年は、主力茨城産は出遅れ回復するも多かった一昨年より微減、終盤の宮崎産は作柄良く一昨年より大幅増加し、総体では入荷微増。総体の入荷量は過去5カ年で最も多く、価格387円は前年比でも安く低迷。 【本年】茨城・宮崎・高知産の出回り。茨城産の春物が本格化して増量、宮崎・高知産も生育順調にて数量増えることから相場は下げ目となる。見通し単価450円は安かった前年よりやや高いも、前年並み。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
茨城 (54%)	なめがたしおさい	B	春ピーマンは2月の天候が安定せず、3月前半まで出遅れ感があったが、現状、前年作に回復し順調。5～6月の最盛期に向かって増えながらの推移となる。作付面積の増加もあり、予想入荷量は順調だった前年並み～やや増。			
宮崎 (25%)	宮崎中央	B	3月下旬は天候良く気温も上がって生育は順調に。現状、日量20tペースの出荷で、4月に入ると24t程度と横ばい～微増傾向にて推移する見通し。全体量は前年並みを見込む。			
高知 (12%)	高知県 (とさし)	B	着果状況も問題なく、前年作と順調。気温上昇にともない、4月に入ると一段と増量に向かう。出荷ペースは月通じて横ばい～やや上向き模様。予想入荷量も前年、前年並みと安定。			

ばれいしょ類

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
140	125	△#	△#	△#	100	87%
販売見通し	前年は、鹿児島産の離島物は潤沢入荷したが、終盤の北海道産は小玉傾向で前年の8割レベルと少なく、総体では入荷微減。3～4月の気温高による品質低下、発芽リスクの懸念から引合い弱く、価格115円は前年の4割安。 【本年】鹿児島産・北海道産中心の出回り。北海道産は残量少なめだが芽が出やすく、品質劣化のリスクから他府県産に注文が移行している。鹿児島産は豊作傾向で本土産は計画以上の出荷も予想される。販売面ではこれまで同様の鈍い荷動きが続くと思われる。見通し単価110円は安かった前年並みも前年比4割安。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
鹿児島 (68%)	あまみ (徳之島)	BC	4,000tの計画数量だったが3,600tに修正が入り、3月末時点で残量はあと300tとなっている。4月は1日置きか2日置きの出荷となり、日々減少となる。			
	鹿児島きもつき	B	計画数量は3,600tで、現状1,000tが出荷済み。5月連休前にできるだけ出荷を済ませる体勢で動いている。L中心の大玉傾向で、全体量は計画数量を上回ることも考えられる。			
	鹿児島いずみ	AB	4月1日より販売開始予定。天候良く、生育は前倒し気味。大玉傾向で、計画数量は8,500tと前年以上を見込む。			
北海道 (30%)	ようてい	C	玉流れはL>LM>2Lサイズと小玉傾向。4月は一段と減少するも、月通じては計画通りに安定入荷し、5月連休前でほぼ終了。貯蔵量は前年、前年比とも少なく、予想入荷量も前年の8～9割。			

たまねぎ

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
133	130	△#	△#	△#	100	98%
販売見通し	前年は、シーズン当初は少なかった佐賀産は4月に作型が切り替わり一昨年並みに出てきたが、終盤の北海道産はやや少なく、総体では入荷微減。価格102円は基調高の一昨年より安も前年並みと堅調。 【本年】北海道・佐賀産中心の出回り。佐賀産は作柄良く大玉傾向。4月は弱含みの展開が続くだろう。北海道産より府県産の方が安くなるのが早く、新物への切り替えが例年より早い。新物も数量多いため、北海道産も販売苦戦が予想される。見通し単価100円は前年並みも前年よりやや安い。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
北海道 (56%)	きたみらい	BC	終盤の5月に向かって、4月は減りながら推移する。貯蔵量は前年、前年比とも少ないが、市場出荷はL大中心と玉流れは前年並み。市況如何だが、予想入荷量は前年比95%。			
佐賀 (32%)	さが (白石)	B	暖冬のため進度は1週間ほど早まっている。大玉傾向で、4月は出回りが日々増えていき、下旬からが本格的な増量となる見通し。			

ブロッコリー

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
380	400	○#	#	△#	420	97%
販売見通し	前年は、上旬より埼玉産の春ブロッコリーは順調に増量するも、西南暖地産の秋冬作が終盤を迎え端境で絶対量不足となり相場は上昇。中旬には西南暖地産の春作が始まり、下旬には埼玉産がピークを迎えたことで絶対量不足は解消され価格は下がるが、荷動きは鈍化した。 【本年】4月上旬は埼玉産メインとなるが、西南暖地産は端境のため価格は堅調で推移しよう。中・下旬からは埼玉産がピークを迎え、西南暖地産の春ブロッコリーも始まるため、相場は下げに転じる見込み。					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
香川 (33%)	香川県 (三豊)	B	作柄は順調で4月の全体量は前年並みの見込みだが、生育は1週間前進しているため、出荷の山が前年に比べて前倒しになる見込み。			
埼玉 (23%)	榛沢	B	作付は横ばい。やや前進傾向で進んでいた生育も寒の戻りがあるため落ち着く。春ブロッコリーはすでに入荷が始まり、徐々に増量。ピークは4月15日～5月10日頃で前年並みの量を見込む。			
	ふかや (南部)	B	春ブロッコリーは3月末から出荷開始。4月は増えながら推移し、4月下旬～5月連休にかけて最大のピークを迎える。今後の生育次第だが、早場の圃場のものが4月下旬に重なる可能性もあり、入荷量は前年並み～やや増。			
愛知 (15%)	愛知みなみ (田原)	B	現在品種が切り替わり端境を迎えている。4月1日より春ブロッコリーの出荷が始まり、15日頃から生産者も増えて25日に本格ピークを迎える。春ブロッコリーの作柄も問題なく天候次第ではあるが、前年並みの量となる見込み。			

アスパラガス

前月上中旬	下旬見込み	上旬	中旬	下旬	見通し単価	前年比
1274	1,300	#	○#	○#	1,400	102%
販売見通し	<p>前年は、一昨年の不作から回復し国産品は不足感もなく、順調な出回りとなった。月後半は九州産の春芽の減少にともない強めの展開となったが、月総体の価格は前年の高値反動もあり平年より若干安に落ち着いた。 【本年】各産地とも株の状態は良好。九州産は出荷前進のため、4月中旬頃に後続の関東・東北産との端境となる見通し。品薄感の高まりから、中旬以降は相場上昇が見込まれる。九州産の出荷前進により予想入荷量は前年比95%とやや減、価格1,400円は前年より若干高も平年並み。</p>					
主産県	産地名	出荷現況	作柄状況			
栃木 (24%)	なすの (湯津上)	A	作付面積は前年以上。株の仕上がりも問題なく、生育進度も平年並みペースと順調。現状、増えながら推移しており、4月15日頃には量もまとまり、4月下旬～5月上旬にかけてピークを迎える。出回りの中心は、2L、Lサイズと太りも順調。作付増もあり、前年を上回る入荷見込み。			
長崎 (16%)	壱岐市	BC	前年のような生育遅れもなく、平年作と順調。例年通り3月下旬に最大のピークを迎える。4月に入ると緩やかに減少しながら推移し、中旬以降は立茎作業に入るため、一段減り込む見通し。予想入荷量は遅れ分がずれ込んだ前年を下回るが平年並み。			
佐賀 (10%)	さが (川副)	BC	生育ペースは前年より7～10日ほど早く、現状、ピークも過ぎて減りながらの推移。4月は終盤を迎え、減少ペースも加速し、4月いっぱいではほぼ終了。シーズントータルの出回り量は前年以上と予想されるも、前段の出荷前進もあり、4月入荷量は前年を下回る見込み。			
福島 (6%)	会津よつば (山都)	A	生産者の高齢化もあり、作付面積は前年比95%。養分転流期の好天に恵まれ、株の状態は良好。年明け後の気候は温暖に推移し、ハウス物の生育は1週間ほど前進しているが、露地物の生育は平年ペース。露地物は前年と同じく、4月中旬に出荷始まり、5月第2週にピークとなる見通し。肥大はL>2Lサイズと平年並み。前年は急な低温で数量伸び悩んだが、本年の予想入荷量は平年並みに回復。			

その他の野菜

品目	県名	産地	生育・出荷情報
ごぼう	熊本	菊池地域	【春ごぼう】作付面積は若干減。11月～2月の低温で生育が遅れていたものの、2月末より気温が上がり、回復している。今年は4月10日頃入荷開始の予定。肥大も良く、3L>2Lサイズ中心。ピークは例年通り5月連休明けの見込み。
にら	栃木	かみつが (鹿沼)	気候も安定し、ニラの伸びもしっかりしてきている。4月は下旬に向かって緩やかに増量し、全体量は平年並みの見込み。
ミニトマト	熊本	玉名	1、2月の降雪の影響もなく、生育は順調。例年通り4月中旬頃にピークを迎える。サイズはM中心。作付面積も増えているため、前年より多い入荷量となるだろう。
	愛知	ひまわり	出荷量は徐々に増量中。草勢、着果状況ともに順調。気温上昇とともに増量し4～5月は潤沢出荷が続く。耐病性(黄化葉巻病)のある品種を導入したこともあり、入荷量は前年以上を見込む。

その他の野菜

品目	県名	産地	生育・出荷情報
いんげん	沖縄	沖縄県農協	現在ピークに入り、4月1週目までは潤沢だが、その後緩やかに減少し、終盤を迎えるだろう。4月全体量は前年並みの見込み。
	長崎	島原雲仙	3月14日から入荷開始。寒さで例年よりも定植が遅れたため、出方は鈍く4月3週目に谷間が開く可能性もあるが、全体量は前年と変わらないだろう。生産者は4月後半から5月初旬に出揃う予定。
そらまめ	鹿児島	いぶすき	作付若干減。生育は順調で現在ピークに入り、4月中旬まで潤沢な数量で推移しよう。例年は4月までの出回りだが、切り上がりが見込まれる。
スナップえんどう	愛知	豊橋	樹勢も良く、生育順調。現在ピークに入り、4月中旬まで潤沢な入荷量となるだろう。5月中旬頃に切り上がる見込み。
かんしょ	千葉	かとりほか	イタミが多く、貯蔵量は減少している。4月15日頃から春作業に入るため、出荷量は大幅に減少する見込み。
	茨城	なめがたほか	
たけのこ	国産	-	九州産地は裏年の産地が多く、4月上旬に10kg規格に切り替わると箱数が減るだろう。中旬にピークを迎える静岡産も裏年のため、全体量は平年よりも少ない量となる見込み。
ふき	愛知	あいち知多	春ふきは3月下旬時点でピークに入っているが、本年産は根張りが弱いことから数量伸び切らず、ピークの山は平年より小さい状況にある。肥大自体は2Lサイズと順調。4月中旬までピークが続き、下旬から徐々に減少に向かう。作付減の流れもあり、前年、平年よりも少ない見込み。
山うど	群馬	利根沼田 (糸ノ瀬)	現状、ハウス物と露地物の端境で入荷量は少ない状況が続いている。夏場の高温干ばつ、秋口の台風の影響を受け、株の状態はやや不良。露地物は夜温が低く、生育は若干遅れ気味だが、例年通り4月当初から出荷本格化し、中旬までまとまった量が出てくる。出荷自体は5月連休頃まであり。平年より収量上からず箱数は少ないが、肥大は2L、3Lサイズと順調。
葉しょうが	静岡	静岡市	作付は前年並み。生育は概ね順調で肥大も良くLサイズ中心。ピークは4月20日頃に迎え、全体量は前年より若干少ない見込み。